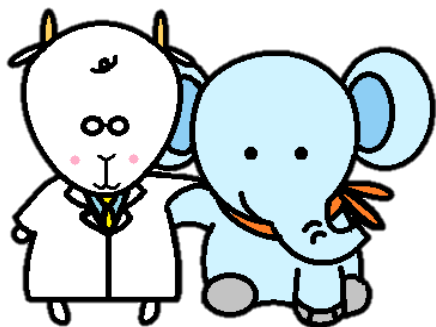




脱抑制対人交流症/脱抑制型対人交流障害 の子どもへの支援に役立つカウンセリング



西明石カウンセリングオフィス



脱抑制対人交流症とは

- ほとんど初対面の人に対して、誰かれ構わず親しげに関わるなど、過度の馴れ馴れしさを含む抑制が効かなくなった行動様式がみられます。
- 大人や仲間との対人関係能力をひどく損ないます。
- 養育者との関わりの不全によって、愛着形成の過程に問題が生じます。



脱抑制対人交流症

症状

- 見慣れない大人に近づいたり、ついていく。
- 過度の馴れ馴れしい言葉かけや接近を行う。
- 養育者を振り返って確認しない。
- 注意を引くための発言や行動をとる。



症例（5歳、女の子）

幼稚園では、他の園児とも遊ぶこともなく1人で行動するが、幼稚園にはじめて来た訪問者には寄っていき、抱っこをせがみ、膝の上に座るなど過剰に甘えた。気に入った先生にはべたっとひっついていていた。母親が迎えに来たときは嬉しそうな顔を全くせず、母親の前をさっさと歩いて帰った。



対応

- ・場面に合った適切な行動と対人コミュニケーションを促すためのソーシャルスキルトレーニング（SST）、大人や友達との間の信頼感や自己肯定感を育てるための子ども間のグループワークが有効です。
- ・要求や気持ちの表現方法を学ぶ場もあります。

治療

- ・不眠や不安に対する薬物療法が必要なこともあります。
- ・養育者への発達ガイダンスなど支持的・教育的支援を行うこともあります。



予防・子どもの頃にできること

- ・愛着形成機会を与える
- ・ネグレクト環境からの脱出
- ・養育者の頻回な変更を避ける
- ・特定の愛着対象を長期にわたって育てる、または支援する
- ・養育者に対して子どもの比率が高い施設を避ける



⚠ 馴れ馴れしくさせすぎることや、近づいてきたときに嫌そうな顔をする
ことは避けましょう。



カウンセリングでできる支援

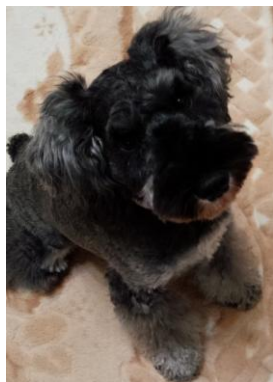
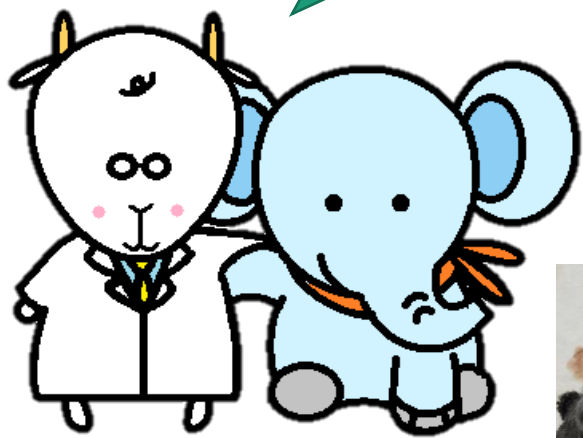


脱抑制対人交流症の支援に役立つカウンセリング

- 子どもが養育者との間で安心できたり、信頼できる感覚を持てるよう、安全な環境を提供し、心理療法を通して関わります。
- 養育者も一緒に支援をしていくことで、交流の改善を図ります。子どもに適切な方法で関わることができるよう、家族を含めた支援を行います。
- 養育者に対して障害の特性の理解を図ることで、あらかじめ予測を立てたり、混乱が減るなど、安心感を得る効果もあります。
- 近づきすぎず離れない適切な関わり、情緒的な安定を促します。



シリーズで皆さんの参考になることを
お伝えします。



次回は パーソナリティ症について



西明石カウンセリングオフィス

